

▽広島駅—稲荷町の0.5キロ

広島電鉄（広島市中区）の社長に6月29日に就任予定の越智秀信常務は12日、JR広島駅と広島市南区稲荷町を結ぶ路面電車の新路線「駅前大橋線」について、2016～17年の運行開始を目指す考えを明らかにした。同路線の開始時期を示したのは初めて。運行時間短縮につながる新線計画が動き出す。

越智氏は中国新聞のインタビューに「駅に真っすぐ入る路線を整備する。紙屋町と広島駅間の時間短縮のため早く実現したい」と、新線の実現に意欲を示した。また「駅南口広場の再整備に合わせ、広場内のホームを増やしたい」と話した。



現路線は東側の的場町と猿猴橋町を經由しており、大回りになっている。

市は本年度予算でJR広島駅南口広場再整備の調査費約545万円を計上した。広電は広場再整備に合わせ、線路やホームを改修する計画。同駅—稲荷町間の駅前通り約0.5キロに線路を敷設し、ルートを変更する。同区間の所要時間は約3分の短縮を見込む。

市都市交通部は新線について「JRやタクシー、バス会社や県警と調整しながら、広場の再整備計画の中で検討する」としている。

駅前大橋線は中国地方交通審議会広島県部会が02年、整備を中国運輸局長に答申した。だが駅前広場の再整備の見通しが立たず、計画は進んでいなかった。（桑島美帆）